

特別論文

日本特殊教育学会第40回大会の概要報告

藤原 義博*

平成14年9月14日(土)から16日(月)までの3日間にわたって、節目となる日本特殊教育学会第40回大会が本学(上越教育大学)を会場に開催された。

本大会では、本学が新しい構想の基で開設された教員養成大学という存在基盤に依拠し、かつ「21世紀の特殊教育の在り方について(最終報告)」(2001年1月)の提言を受け、特別なニーズへの支援にあり方について考究するという命題に迫るために、①ライフステージを見通すこと、②学校に限局せずに家庭や行政などの複合的な視点に立つこと、をキーワードに特別講演、および準備委員会企画シンポジウムや教育講演を開催した。

開催当日の参加者は表1に示したとおり、3日間で約1600名という予想を上回る参加者を得て、盛会のうちに終わることができた。

本稿では、今大会の概要を報告すると共に、主として自主シンポジウムとポスター発表および口頭発表を中心に、報告された内容について概観してみたい。

1. 講演および学会・準備委員会企画シンポジウムの概要

開催された特別講演、教育講演および学会・準備委員会企画シンポジウムの内容および参加者は表2・3に示したとおりであった。

今後のわが国の特殊教育に関わる重要な行政施策等に関して、特別講演の細村迪夫氏(国立特殊教育総合研究所)からは調査研究協力者会議等の動向を中心に、「特別支援教育」が向かう方向と課題について解説され、教育講演4の西川公司氏(国立久里浜養護学校)からは中央教育審議会の「今後の教育免許制度の在り方について」(平成14年2月)の答申において示された特殊教育総合免許状の導入に関わる経緯や課題について紹介された。

また、末光茂氏(川崎医療福祉大学)の教育講演2

では、20年ぶりに改正されたWHO(世界保健機構)の「国際障害分類第2版(ICIDH-II)」について、その改訂に至る経緯や国際生活機能分類(ICF)に含まれる領域や用語の定義について解説された。

さらに、清水貞夫氏(宮城教育大学)(教育講演1)からは、インクルージョンを目指す障害児教育制度の目指すべき方向と改革すべき課題について、古川宇一氏(北海道教育大学)(教育講演5)からは地域に根ざした障害児者のライフステージを見通した教育的生涯支援の在り方について提言があり、そうした障害支援を支える科学の進歩とその課題について星名信昭氏(上越教育大学)より提言された。

学会企画シンポジウム1では、これまでも議論が続けられてきた特殊教育学研究における事例研究の特徴と意義について討議された。学会企画シンポジウム2では、文部科学省がそれまでの「特殊教育課」から「特別支援教育課」に改めるなど、近年の特殊教育の現状を踏まえて、1963年の創設以来40年にわたる本学会の「日本特殊教育学研究」という学会名称の改正をにらんで、教育現場の立場から「特殊教育」の名称をめぐる問題について討議された。学会企画シンポジウム3では、最近の免許問題をめぐる動向に鑑み、各種障害に広く対応した総合性と専門性の確保という課題について、教員としてのライフステージを見通した研修のあり方について討議された。

準備委員会企画シンポジウムでは、先に述べた本大会のテーマを基に、異なった障害種別における就学前障害児に対する教育支援の状況やあり方についてや、障害児教育担当教員の今後の研修のあり方と方向性、理論的な根拠に基づいた個別指導を確立するための心理学的観点と実践的観点からの評価のあり方、通常学級にいる特別な教育ニーズのある児童生徒とその家族に対する支援の方向性、義務づけられた個別の指導計画作成に関わる課題とそれに基づいた教育支援のあり方についての5つのシンポジウムが企画された。

* 上越教育大学障害児教育講座

2. 学会発表の概要

表4は、本大会で報告された自主シンポジウムを含めたポスターおよび口頭発表の障害種別発表数である。集計に当たっては、各発表で示された障害種別に関するキーワードおよび内容によって、その主たる障害種別によって分類を行った。したがって、実際の発表には複数の障害種が含まれていることをお断りしておきたい。

この表から見ると、各発表とも知的障害が最も多く、自閉症や学習障害といった知的障害に関連する発達障害も含めると全体の約半数を占めている。次に聴覚障害が12%、運動・言語・視覚・健康障害がそれぞれ4~6%の割合であった。これらの障害種別における発表比率は、おそらく前年度の大会とそれほど変わらないものと思われる。

以下では、自主シンポジウムとポスターおよび口頭発表について、もう少し詳しくその傾向を見てみたい。

(1) 自主シンポジウムの概要

表5は、自主シンポジウムにおける障害種別ごとの主要なキーワードによる集計である。障害種別では、知的障害に関わるものが多く、自閉症や学習障害を併せると全体の約30%を占め、次に言語障害に関わるシンポジウムが多かった。全体的な内容を見ると、コミュニケーション技能や地域生活技能等の技能形成や授業等の指導に関わるシンポジウムが多く、特に、各障害種とも地域生活に関わるものが多かった。その他、評価やアセスメントに関するものや、教師の意識や研修といった教師のあり方に関わるものも多く見られた。

シンポジウムの内容を拾ってみると、高齢者を含む障害児者の地域生活支援や障害発達支援など、QOLの向上に向けた話題が散見された。また、個別の指導計画や自立活動、生徒の自己評価、情報教育、総合的な学習といった新学習指導要領の実施と関連した授業に関わるものや、個別移行支援計画や個別支援計画といった今後につながると思われる話題も見られた。自閉症（情緒障害）や学習障害では、障害の重い子どもと軽度の障害や特別なニーズを持つものに別れ、特に後者の話題に関わる内外の取り組みに関するものが見られた。

また、自主シンポジウムは3日間にわたって行われ、特に最終日の参加者は少ない傾向が顕著であったが、参加者の多いシンポジウムを拾ってみると、自閉症のTEACCHや心の理論、コミュニケーション障害児のアセスメントと支援に関するものに関心が高いよう

であった。

(2) ポスター発表および口頭発表の概要

ポスター発表と口頭発表は、発表形式の違いであって、基本的に同じ性質を持つものと考え、あわせてその概要を見ることにする。

表6は、ポスター発表と口頭発表をあわせて発表内容の主要なキーワードを元にした集計結果である。全体を概観すれば、健康障害を除く発達障害に関わる発表では、知識・技能の指導に関わる分野の発表が約3割を占め、中でも文字の書字や読み、発語といったコミュニケーション行動の指導に関するものが多く見られる（全体の約18%）。

その他のキーワードでは、評価・アセスメント、ソーシャルスキル、家庭・保護者、保育・幼児教育に関わるものが多く見られた。その他、連携、歴史、諸外国に関わる発表が多く見られた。また、各障害とも、方法論として調査を用いたものが多かった。

障害種別ごとに見ると、知的障害では、やはりコミュニケーション技能や生活支援に関わる指導に関する発表が多く、その他、評価・アセスメント、連携、個別の指導計画や自立活動などに関するものが目立った。

自閉症（情緒障害）では、同じくコミュニケーション技能の指導に関するものが多く、その他、問題行動、家庭・保護者、ソーシャルスキルなど、自閉症の特性を反映した発表内容が伺われる。この中には軽度の広汎性発達障害も含まれているが、特別なニーズを持った児童・生徒に関する学習障害の発表では、読み・書きや教科の指導に関する発表が目立った。

運動障害では、運動・身体やコミュニケーションの他、福祉建築・工学といった障害特性に根ざした発表傾向が見られる。重度・重複では、同じくコミュニケーションの他、家庭・保護者に関するものが多かった。

次に、健康障害でも障害特性が反映され、個別の指導計画や自立活動、生活習慣といった発表が散見した。また、聴覚障害、言語障害、視覚障害では、当然ながらその障害特性を反映したコミュニケーション指導や点字や文字指導に関する発表が多かったが、特に聴覚障害では音楽・音楽療法と音楽を使用した活動や指導に関するものが目立った。

3. ま と め

今回は、主としてキーワードを基に大会発表の概要を見てきた。全体傾向としてはそれぞれ障害特性を反映した発表傾向が伺われた。こうした傾向は、毎年、

それほど大きな違いはないと思われる。発表内容については、今回、詳しく検討できなかったが、個別の指導計画や自立活動、コンサルテーション、連携といった今日的な話題を含んだ発表が目立った大会であった

ように思われる。

最後に、主催校として、この場を借りて予想を上回る発表件数と参加者を得、大会を盛り上げて頂いたことに対して心よりお礼を申し上げたい。

表1 日本特殊教育学会第40回大会参加者数

参加者	招待者	正会員	臨時会員	一日会員	学生会員	合 計
人 数	3	1049	277	190	80	1599

表2 講演演題と参加者人数

講 演	演 者	演 題	参加者数
特別講演	細 村 迪 夫 (国立特殊教育総合研究所)	これからの特別支援教育の在り方についてー我が国における行政施策の動向を中心にー	600
教育講演1	清 水 貞 夫 (宮城教育大学)	インクルージョンを目指す障害児教育制度の改革	115
教育講演2	末 松 茂 (川崎医療福祉大学)	ICF の現代的意義	116
教育講演3	星 名 信 昭 (上越教育大学)	科学の進歩と障害支援	100
教育講演4	西 川 公 司 (国立久里浜養護学校)	総合免許状の導入に向けて	95
教育講演5	古 川 宇 一 (北海道教育大学)	障害問題における環境因子としての地域社会と改革への取り組みー地域に根ざした生涯支援に向けてー	65

表3 学会および準備委員会企画シンポジウムの企画内容および参加者数

シンポジウム	企 画 内 容	参加者数
学会企画シンポジウム1	事例研究の意義とその進め方	70
学会企画シンポジウム2	教育現場から見た「特殊教育」の名称を巡って	68
学会企画シンポジウム3	障害児教育教員の専門性と研修をめぐる	70
準備委員会企画シンポジウム1	就学前障害児に対する教育支援	77
準備委員会企画シンポジウム2	障害児教育担当教員の研修（現職教員）のあり方	110
準備委員会企画シンポジウム3	発達障害児の評価と支援ー根拠に基づく教育実践に向けてー	250
準備委員会企画シンポジウム4	特別な教育ニーズのある児童生徒とその家族への支援に向けて	176
準備委員会企画シンポジウム5	個別の指導計画にもとづく教育支援の現状と課題	148

表4 障害種別発表数

自主シンポ		ポスター発表		口頭発表	
障害種	数	障害種	数	障害種	数
知的障害	11	知的障害	89	知的障害	24
自閉症・情緒障害	5	自閉症・情緒障害	81	自閉症・情緒障害	12
学習障害	1	学習障害	28	学習障害	0
運動障害	1	運動障害	18	運動障害	0
重度・重複障害	4	重度・重複	20	重度・重複	4
聴覚障害	4	聴覚障害	46	聴覚障害	13
言語障害	6	言語障害	8	言語障害	18
視覚障害	1	視覚障害	19	視覚障害	3
健康障害	2	健康障害	11	健康障害	6
非行	1	非行	6	非行	0
外国人児童	0	外国人児童	4	外国人児童	1
その他	19	その他	50	その他	23
合 計	55		380		104

* 自閉症と学習障害が同時に含まれるものは「自閉症・情緒障害」に加えた。

表5 自主シンポジウム（キーワード）

障害種	キーワード	件数	障害種	キーワード	件数
知的障害	個別の指導計画	2	言語障害	アセスメント	1
	自立活動	2		通級指導教室	2
	授業	4		家庭／保護者／母親・（社会性）	1
	評価	1		評価	1
	支援ツール	1		読み	1
	コミュニケーション	1		言語	3
	意識	1		コミュニケーション	1
	地域生活	4		意識	2
	音楽／音楽療法	2		地域生活	1
	研修	1		教師／教員	1
	行政	1		社会性／ソーシャル	2
自閉症・ 情緒障害	その他	5		検査	1
	問題行動	1		その他	2
	認知	2	視覚障害	意識	1
	保育／幼児	1		地域生活	1
	検査	2		その他	1
学習障害	その他	6	非行		2
	学校心理士	2	その他	個別の指導計画	2
運動障害	通常学級	1		通常学級	1
	その他	2		交流	2
重度・重複	個別の指導計画	1		授業	4
	自立活動	1		評価	4
	地域生活	1		医療	1
	就労	1		連携	3
	教師／教員	1		コンピュータ、ソフト	1
	学校心理士	1		地域生活	4
	その他	2		歴史	1
健康障害	医療	1		社会性／ソーシャル	1
	教師／教員	1		諸外国	1
	その他	2		検査	1
聴覚障害	通級指導教室	1		早期教育	2
	読み	1		行政	5
	書字	1		その他	20
	言語	1			
	諸外国	1			
	音楽／音楽療法	1			
	その他	1			

日本特殊教育学会第40回大会の概要報告

表6 ポスター発表と口頭発表(キーワード別集計)

障害種	キーワード	件数	障害種	キーワード	件数	障害種	キーワード	件数	障害種	キーワード	件数
知的障害	個別の指導計画	3	調査	調査	2	連携	連携	1	運動・身体	運動・身体	1
	自立活動	5		意識	1		言語	1		教科	1
	教育相談・相談	1		保育・幼児	7		コミュニケーション	6		早期教育	1
	問題行動	3		生活習慣	1		調査	1		心理	1
	アセスメント	5		地域生活	1		意識	2		その他	1
	通常学級	1		余暇活動	2		生活習慣	1	視覚障害	交流	1
	交流	1		就労	1		運動・身体	1		統合	1
	家庭・保護者	5		教師・教員	4		認知	1		コンピュータ	3
	授業	4		運動・身体	1		音楽	1		文字	4
	評価	5		ソーシャルスキル	17		その他	3		読み	5
	医療	1		教科	2	健康障害	個別の指導計画	1	点字	6	
	連携	9		認知	1		自立活動	3	言語	1	
	支援ツール	5		神経心理学	3		教育相談・相談	2	調査	2	
	コンピュータ	3		音楽・音楽療法	1		医療	2	保育・幼児	1	
	書字	3		検査	1		連携	1	歴史	3	
	読み	1		早期教育	1		コンピュータ	1	運動・身体	2	
	言語	3		その他	12		調査	3	教科	2	
	コミュニケーション	5	学習障害	アセスメント	2		意識	1	神経心理学	1	
	要求言語	2		通級指導教室	1		生活習慣	3	諸外国	3	
	調査	3		評価	2		余暇活動	1	その他	2	
	意識	3		連携	1		教科	1	非行	医療	2
	保育・幼児	2		コンピュータ	1		神経心理学	1		ソーシャルスキル	1
	生活習慣	4		文字	5		心理	1		その他	3
	地域生活	2		書字	4	聴覚障害	その他	1	外国人	通常学級	1
	余暇活動	1		コミュニケーション	1		通常学級	1	児童生徒	通級指導教室	1
	就労	4		読み	5		統合	1		調査	1
	教師・教員	2		調査	1		通級指導教室	1		諸外国	1
	歴史	2		余暇活動	1		家庭・保護者	1	その他	個別の指導計画	4
	運動・身体	6		教師・教員	3		評価	3		自立活動	3
	ソーシャルスキル	1		運動・身体	1		連携	2		教育相談・相談	4
	教科	2		ソーシャルスキル	1		コンピュータ	3		通常学級	1
	算数	5		算数	3		文字	2		通級指導教室	1
	神経心理学	3		認知	2		読み	4		家庭・保護者	3
	諸外国	2		神経心理学	1		言語	12		授業	1
	音楽・音楽療法	4		その他	6		コミュニケーション	2		評価	1
	検査	1	運動障害	自立活動	2		調査	5		医療	1
	早期教育	1		家庭・保護者	1		意識	1		連携	1
	高齢者	1		評価	1		保育・幼児	5		コンピュータ	2
	その他	6		医療	1		教師・教員	3		読み	1
自閉・情緒障害	自立活動	3		コンピュータ	1		歴史	4		言語	1
	問題行動	9		文字	1		認知	1		コミュニケーション	2
	アセスメント	2		コミュニケーション	2		神経心理学	1		調査	11
	通常学級	5		調査	1		教科	1		意識	1
	統合	1		意識	1		行政	1		保育・幼児	8
	通級指導教室	2		就労	1		諸外国	3		余暇活動	2
	家庭・保護者	11		教師・教員	3		音楽・音楽療法	5		教師・教員	1
	評価	2		福祉建築・工学	3		検査	2		歴史	10
	医療	1		運動・身体	7		その他	8		福祉建築・工学	4
	連携	3		諸外国	2	言語障害	通級指導教室	2		諸外国	9
	支援ツール	1		検査	1		言語	1		音楽・音楽療法	1
	コンピュータ	1		その他	1		コミュニケーション	5		検査	3
	文字	1	重度・重複	問題行動	1		調査	3		行政	2
	言語	5		家庭・保護者	3		家庭・保護者	1		高齢者	2
	コミュニケーション	12		評価	1		保育・幼児	2		統合	1
	要求言語	3		医療	1		教師	1		その他	10